

佐川印刷木下会長の講演は「感動のDVD」からスタート。

木下会長の紹介の後、会場が暗くなると、大きなスクリーンいっぱいに「情熱と感動の軌跡ー佐川印刷40年の歩みー」の文字が。そして始まった20分余りの上映会は、文字通り感動的なものでした。

大阪万博の年、京都の片隅で、1台の自転車と若さのみを頼りに「キノシタ印刷」が誕生してから40年。今年、上海万博のイベント「遣唐使船」に天平の扮装でご夫妻で参加されたときには、1台20億円もの印刷機を有するまでになっていたのです。



若い社員の情熱が、我が社の基礎を築いてくれました。

佐川印刷株式会社 代表取締役会長 木下 宗昭氏

自宅を事務所に自転車1台からスタート

1970年27歳の時に、自宅を事務所に佐川印刷の前身であるキノシタ印刷を開業しました。営業活動はもっぱら自転車。日に55～60軒はまわり、50ccのカブに切り替えてからは1日100軒になりました。お客様を訪問したら、会えなくても必ず名刺を置いてくるようにしていたところ、「君の名刺が100枚以上もたまったよ」と、やっと会っていただいたこともありました。子供の頃から新聞配達や牛乳配達を通して「一所懸命やれば評価してもらえる」と実感していたので、少しも苦ではありませんでした。



「男が男に惚れた」佐川急便会長との出会い

まわっていた100軒のお客様の中に佐川急便がありました。当時はまだ中堅の運送会社でしたが、社員がみな元気で、仕事に対する姿勢が真摯であることなどから「この会社は伸びる」と感じました。仕事をいただいたのは訪問を始めて3年3ヵ月経った頃のこと。佐川会長が出張で持って行く名刺にミスがあり、急遽ご注文をいただきました。通常1週間かかるものを当日の4時にお届けするという超特急をやったのけたところ、会長に大変喜んでいただき、「次の仕事は木下君のところに」と約束していただきました。この時、発注いただいたのが送り状の印刷。これは当社の飛躍のきっかけになりました。現在では伝票の設計から携わり、1日200万セットの印刷を行っています。現在の社名も佐川会長からいただいたものです。

飛行機の中で見たルイ・ヴィトンのカタログの美しさに心奪われて

「印刷はここまで美しくできるのか、これからはグラビア印刷の時代だ!」と、確信しました。そして創業25周年の年、ドイツ印刷機材展のドルツパ95を視察後、グラビア印刷事業部を発足させました。その後イタリア、スイス、ドイツなど、2,300kmを8日間という強行軍で回った後、23名の技術者をヨーロッパに送り、6ヵ月間研修させてグラビア印刷機の導入に備えたのです。

そしてイタリア製で一度にA4サイズ64頁が印刷できる、1台約20億円という日本初の印刷機の導入の検討に入りました。通販カタログの仕事をいくつも請け負っていた当社ではこの設備を導入すれば、納期を2週間短縮でき、4億円削減できると試算が立ちました。そのために滋賀県日野市に、他社に先駆けて最高レベルのグラビア工場を建設。その頃、当社社員の平均年齢は同業他社より8歳若く、大雪が降って建設工事がストップした時には、全員で雪かきをしたのも良い思い出です。工場完成の時には、カメラの担当者が涙でシャッターが切れなかったと聞きました。

一番大切なのは社員のコミュニケーション

現在、当社は業界6位。おかげさまで業績は上昇を続けています。会社が勝ち残っていくには、スピード、品質、価格など様々な要素が必要ですが、中でも社員の信頼関係は特に大切であると思います。当社は社員数11名の時から野球チームを作っていました。すべて社員のコミュニケーションのためです。現在では軟式野球連盟A級に所属、国体準優勝など輝かしい成績を残しています。サッカー部もJFL昇格、国体優勝など高い評価を得ており、コミュニケーションだけでなく、会社全体のモチベーションに大きな役割を担っています。

【特別講演会に参加して】 毎回楽しみに参加している講演会。頂いた感動を社内に持ち帰り、展開します。

ネヤガワドライビングスクール 交通安全センター課 課長 志場 俊則



同業・異業を問わず、色々なお考えを伺う事ができる特別講演会を毎回楽しみにしております。今回もお二方のご講演を拝聴して、発想の転換が必要だと痛切に感じました。課題に対して「できない」と否定から入るのではなく、「できる為に何が必要か」と肯定で考える思考力と行動力は、「現状を大きく変えるパワーに

なるんだ」と勇気づけられました。私たち指導員はややもすると、指定業務に関連する資格審査へのチャレンジは試みるものの、生き残りを賭けたチャレンジ精神が本当にあるのかどうかを、自問自答させられる講演会であつたと感激いたしております。「受け身の姿勢からの脱却」「日頃の準備がチャンスを生み出す」などのお話を弊社内において水平展開することが私の新たなチャレンジと位置づけ、邁進する所存です。

お楽しみ懇親会は、毎回おなじみテーブル対抗クイズや営業スタッフによるエキサイティングなパフォーマンスで、大いに盛り上がりました。

■優勝テーブルには5万円相当(一人5千円)のギフト券!恒例轟会(コヤマドライビングスクールで長期研修を受けた教習所二世の会)による交通クイズは大混戦となり、最後は3テーブルの代表者がじゃんけんで決着。惜しくも2位のチームは、「虎屋の羊羹」でした。



北は北海道から南は九州まで。コヤマドライビングスクール長期研修生が勢揃い

■コヤマ交通教育サービス営業スタッフ6名による手話パフォーマンスユニット「S2Kスマイル」は昨年の特別講演会以来1年ぶりのステージ。今回は新曲北島三郎の「祭り」を携えての登場です。金銀のはっぴにねじり鉢巻で、男っぽく激しい手話ダンスを披露し、お客様の暖かい声援に包まれました。アンコール曲はもちろん、EXILEの「FLY AWAY」。「来年はさらにレパートリーを増やします!」と、全員、熱い意気込みに燃えていました。次回、乞うご期待!



営業マンとは思えないキラのあるパフォーマンス